

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.1 8 5】

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約400カ所へ送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。

本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1) 新規の情報提供希望者が身近におられた場合、BYA-HPの「お問合せ」をご紹介ください。
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2) 有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3) 情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で自由に「転送・SNS拡散」してください。

【目次】

0. 多田個人のベンゾジアゼピン被害への手続きから「**次の国内対策**」へ
1. 「睡眠薬」怖すぎる副作用！依存症、禁断症状、がん発症リスクも
2. 眠気、せん妄、失神…意識障害を起こす持病の薬はこれだ
3. 必要以上の過大評価!? “睡眠” ホルモン・メラトニンの実態を検証する
4. ベンゾジアゼピン依存症の治療病院??

【記事】

0. 多田個人のベンゾジアゼピン被害への手続きから「**次の国内対策**」へ
- (1)すでに、【情報 Vol.184】でお伝えしたとおり、ベンゾジアゼピン副作用に起因する障害について、障害年金が給付され、年金請求の手続きはほぼ終了しました。
- (2)すでに、障害者手帳をH18年9月に交付され、現在も、更新して手帳の継続交付を受けています。
- (3)ベンゾジアゼピンを処方した医療機関 (国循) に対する医療過誤の損賠賠償訴訟は、H31年4月に最高裁で確定して、ベンゾジアゼピン処方における複数の注意義務違反に基づき、少額ながら損害賠償金が支払われ、司法手続きは終了しました。
- (4)PMDAの医薬品副作用被害救済制度は、現在、申請済みで、PMDAの審査待ちです。
- (5)ベンゾジアゼピン被害に対する上記の4つの対策を、広く国内に普及させるべく、第2次・第3次の訴訟手続きを進めており、**多田個人のベンゾジアゼピン被害への手続きから「次の国内対策」へ展開させる努力**をしています。

1. 「睡眠薬」怖すぎる副作用！依存症、禁断症状、がん発症リスクも

<https://friday.kodansha.co.jp/article/92605>

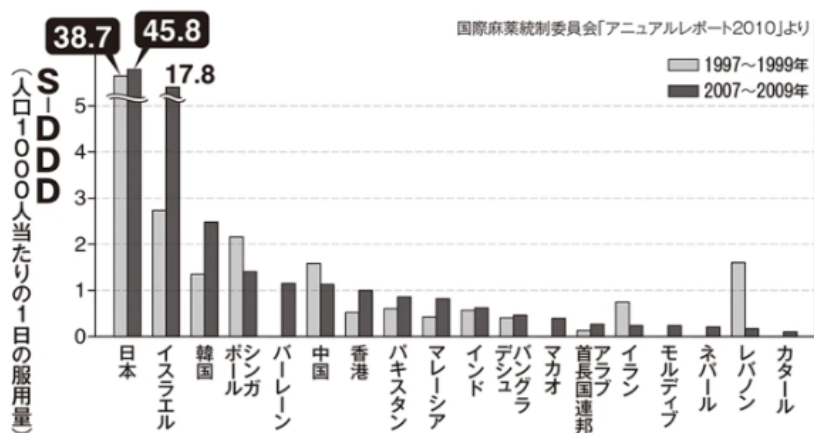
少し前の記事ですが、検索されたので紹介します。

以下引用

『「睡眠薬は脳の中枢に働きかけるので、必ず副作用があります。多量に飲めば呼吸抑制も起こって、命の危険もあります。認知症につながるとも言われており、因果関係ははっきりしませんが、リスクが高まることは確かです。うつ病が発症するリスクも確実に高くなり、肝機能障害が生じる危険性やホルモン分泌を乱すことなども指摘されています。また睡眠薬とアルコールを一緒に飲むと、麻薬のような快感を得られると若者の間で流行したことがあります。これは一番危険な行為です。睡眠薬の効果が増大してしまうので、その分、強い副作用が出やすくなります』』

アジア各国の睡眠薬(ベンゾジアゼピン系)の消費量

日本がダントツ! アジア各国の睡眠薬(ベンゾジアゼピン系)の消費量



2. 眠気、せん妄、失神…意識障害を起こす持病の薬はこれだ

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200326-00000023-nkgendai-hlth>

以下引用

『「たとえば糖尿病の薬は低血糖による意識障害を起こすリスクがあって、中でもSU薬とインスリン製剤はその危険性が高い。抗不安薬や睡眠薬もそうで、中でも長時間作用型ベンゾジアゼピン系と呼ばれるタイプは服薬直後に一過性のせん妄が見られたり、薬効が持続して日中の眠気を誘発しやすい。」』

3. 必要以上の過大評価!? “睡眠” ホルモン・メラトニンの実態を検証する

<https://headlines.yahoo.co.jp/article?a=20200326-00010000-tarzanweb-life>

以下引用

『「メラトニンはその体内時計に作用するホルモン。体内時計は時計である以上、正確さが必要。メラトニンは夜間分泌されることで明暗のメリハリを作り、体内時計が正確に時を刻むのを助けます」(櫻井教授)しかし、眠りを制御しているのは体内時計だけではないから、メラトニンだけで眠りを説明するのは誤り。』

やはり、睡眠は人間の自然な欲求であるから、不眠治療は「生活改善」で行うべきであり、本来、薬物治療の対象ではない。しかし、ベンゾジアゼピンを「安全な薬」と誤解して、すでに依存症に罹患していれば、緩徐な減薬治療によりベンゾジアゼピンを断薬することが重要である。その際、不眠治療との平行になるため、慎重な対応が必要である。

4. ベンゾジアゼピン依存症の治療病院??

<http://www.ebisu-mountain-cl.jp/guide/>

以下引用

『現在、デパスやレキソタン等のベンゾジアゼピン系抗不安薬や睡眠薬等の薬物依存状態になっている多くの患者様の離脱治療も積極的に行っています。』とありますが、実態は不明です。



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史